

◇保久良支部だより

2021 夏山「霊峰 白山を訪ねて」

(岡本マダム初めての山小屋泊)

保久良支部 小堺 忠史

TOKYO2020 開催目前の 2021 年 7 月 22 日～23 日、世間では新型コロナの感染拡大に歯止めがかからず、相次ぐ開催関係者の不祥事に嫌気がさす中、保久良メンバー(徳重隊長、山小屋デビューの逢坂さん、光永さん、オブザーバーに木村支部長を迎え、ドライバー兼太鼓持ちの小堺 計 5 名)で霊峰白山に挑んだドキュメント?を記す。



リュウキンカ咲く観光新道/白山釈迦岳遠望

白山は雪をかぶった純白の印象から、古くは「越の白峰」と呼ばれ、越前の僧「泰澄大師(たいしょうたいし)」が開山した信仰の山として富士山、立山と並ぶ日本三名山の一つとして知られている。7～8月の夏山シーズンには、一斉に咲いた高山植物の美しい花々を見ることができ、今回もその花々をめがけて登ったものである。(添付写真ご参照。お花に関するご質問は木村支部長まで)



チングルマ



ハクサンフウロ



ミヤマクロユリ

今回の登山計画の始まりを明確に記憶していないが、その計画メンバーに亡き曾谷さんがいたことは間違いなく、山小屋デビューのお二人に「大丈夫ですよ。」と話されていたのもいつも優しい曾谷さんだったと記憶する。然し、今回の登山届に曾谷さんの名前がなく、改めて自覚する。

奇しくも曾谷さんが亡くなられたことを知ったのも登山届がきっかけで、普段、ラインの返信が早い曾谷さんの返信が3日もないことに嫌な胸騒ぎを感じ、昨年一緒に登った槍ヶ岳の登山届の緊急連絡先の奥さんに電話し、訃報を知り、納骨に吉野会長はじめ、保久良の仲間、ニューサークルの仲間と立ち会う事ができた。皮肉なものだが、登山届の重要性を思い知らされた。

※皆さん、登山届は年齢詐称等せず、正しく記載し、事前にヒヨコ登山会に連絡するとともに、登山口に設置されている登山届ポストに必ず提出のこと！決して経験、体力他を過信せず山と真摯に向き合い、携帯アプリ、YouTubeの過信は問題外。



ニコウキスゲ

話を戻そう、今回、マイカー移動、山小屋 1 泊での岡本マダム接待登山は早朝 5 時から始まった。濱口さん夫妻からの差し入れをトランクに積み込み、ご夫妻に見送って頂き、定刻通り出発。(グループラインで濱口さんにも間接的に詳細を知らせるところなど、我ながら あざとい。)

山小屋デビューのお二人は言う、服装、装備、おやつ他 万全で、神戸元町、芦屋地区の経済効果に貢献され、YouTube での予習もバッチリで「いざ、白山へ」との意気込みが伝わってくる。

その一方で、駐車場に近づいてくると「私に登れるかしら」と「大丈夫ですよ」と返ってくるのをわかりながら質問され、この期に及んで「厳しいです」とも言えず、お約束通り「大丈夫ですよ」と棒読みで返事する不毛な時間を過ごしながら、計画通り 10:00 前に市ノ瀬駐車場に到着。

余談だが、当日、パトカーが行ったり来たりするので不審に思っていると、タクシー強盗が運転手を切り付け逃走中とのことであった。相変わらずネタに事欠かない我々である。市ノ瀬駐車場～別当出合シャトルバスで移動(約 15 分)。ここまでは計画通り。

(当日はベストシーズンで補助席も使用する満席、山では岡本マダムも例外なしにザック

は膝の上)

いよいよ登山開始。

今回のルートは別当出合～砂防新道～黒ボコ岩～室堂センター(山小屋泊)～御前峰(ごぜんがみね)～室堂センター～黒ボコ岩～観光新道～別当出合

パンフレットでは往路：別当出合～室堂センター(砂防新道登りコースタイム：4 時間)

復路：室堂センター～別当出合(観光新道下りコースタイム：3 時間)なるも 岡本マダムには、コースタイムなど どこ吹く風って感じで、あえてコースレコードは伏せておくと、時々泣きもあったが、笑いも交え、マイペースな登山となった。(我ながら忍耐強いと自負)(やはり百名山、2,702mの山のまえには、岡本マダムもぎゃふんと言わされたご様子であった。)



白山比咩(しらやまひめ)神社から御前峰を望む 何はともあれ、16:00 過ぎに室堂センターへ無事到着。←大体どれくらいかかったかはご想像の通り。

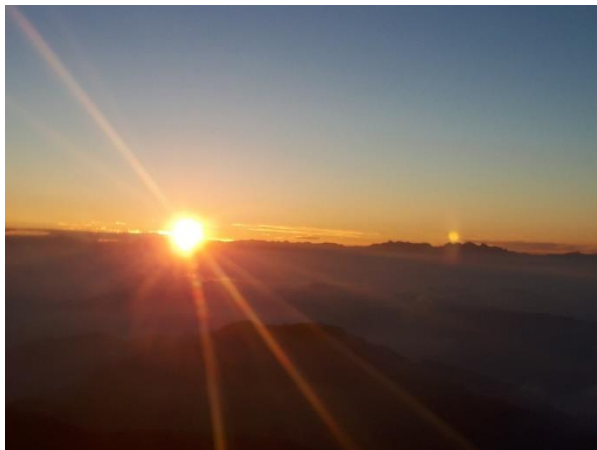
到着するや何はなくともまず生ビール売り場へ直行。体中の細胞がビールを欲していたので、1 杯目をあつという間に飲み干し 2 杯目へ、いつも冷静で実直な徳重隊長より「受付してください」と促され、煩惱に勝てない己(おのれ)に大反省。岡本マダムのことをどうこう言えたものではない。

受付を終え荷物を置き落ち着いていると、そ

れまで曇っていた空が晴れ、日が差し始めた。外へ出て記念撮影。コバイケソウの白い花が一面満開であった。

普段、花の話等しない私ですが、コバイケソウを「今晚、いけそう」と覚えればよいとH振支部の1ぬい支部長が言われていたと聞き、一回で覚えてしまったこともあり、皆さんにもご紹介する。

又、すれ違った登山者から聞いた話だが、(ハクサン)トラノオは「虎の尾」から来ており、虎のお尻(ウオコ)の匂いがすることからその名が付いたらしい。確かに臭い匂いがしたが、なぜ虎のお尻だけが臭いのか合点いかないが、岡本マダムは、レベルの低い下ネタとその匂いをお気に召されたようで、炎天下で殺伐とした雰囲気にと時の笑いが生まれたことは間違いない。



御来光に思わず手を合わす！

話のレベルを戻そう、翌朝、3時に山小屋を出発し、白山山頂(御前峰)へアタック。

2日目も十二分(じゅうにふんではなく、**じゅうにぶん**)に余裕をもって出発。

コースタイムは50分だが、前日の疲れ、早朝(寝起き)、高度への順応等も考え、ゆっくり登り、1時間強で登頂。(この季節でも早朝の山頂は寒くダウンがあったほうが良い。私は自身の脂肪を過信し、薄着で挑み大失敗)後ろを振り返るとヘッドライトの明かりが数珠つながりになっているのが見え、既に特等

席を陣取った優越感と芦屋大丸の高級アンパンと暖かいコーヒーを楽しむ優雅さに浸りながらご来光を待つ。



御前峰(ごぜんがみね)に立つ！

海が立ち込めている眼下の山々の間からご来光が差した時、思わず手を合わせていた自分が居て、普段、信仰心等全くない自分がこんな時だけと自身の都合の良さを再認識した。山頂の白山比咩(しらやまひめ)神社で参拝、記念碑前で記念撮影。

格好つけるわけではないが、曾谷さんはもっと生きて、もっと山に登りたかっただろうと思い、最近、曾谷さんのザックとストックと一緒に登っている。今回も一緒に登り、一緒に記念撮影した。



白山比咩(しらやまひめ)神社にて

天気、花々、満月、星空、雲海、ご来光すべてにおいて最高だったのは、曾谷さんが天国から見守っていてくれたからかなと思う。(曾

谷さん、これからも見守ってください!!)
山小屋に戻り、朝食、後片付けを済ませ、7:00
下山開始。

帰路は観光新道ルート。その名の通り高山植
物の花々が咲き誇るとても美しいルートであ
る。出発してしばらくは、岡本マダムもお腹
も満たされ、景色も最高、すべてが順調。



弥陀ヶ原を行く

帰路の1/3地点(殿ヶ池避難小屋)で休憩。
いつも正念場で、お湯教(おゆきょう)の教祖で
ある木村支部長より暖かい飲み物を頂くが、
今回も暖かいお汁粉をお湯教信者の我々に振
る舞われた。※夏でも暖かい甘い飲み物(お汁
粉、ココア等)は疲れた身体を癒すのでお勧め、
お湯持参のこと。

お汁粉で元気をチャージし、再出発。ここから
岩場の急登を下りる試練の時となる。
YouTubeで予習された岡本マダムは映え(ば
え)ない岩場の急登は見ておられなかったよう
で、次第に泣き言とともに、歩きもスロー
ダウン。別当出合まであと2Kmの標識を見
てから久しく、岡本マダムの好むくだらない
話題(特にゴシップを好む)を探すもすぐに

「しんどい」「疲れた」と返ってくるので「見
たらわかります」と言い返す自分がいて反省。
何とか登山口(別当出合バス乗場)までたどり
着きホッとひと安心。



馬の背(急登尾根)

市ノ瀬駐車場より10分くらいのところにあ
る白峰温泉 総湯で汗と登山の疲れを流した。
先程まで、落ち武者だった岡本マダムは、温
泉ですっかり復活され、偉業を達成した満足
感からか少々ビッグマウスになられた感はある
ものの、その逞しさに脱帽。

帰路の車中も、話題のレベルは低いが饒舌な
保久良チームは、ドライバーが孤独との闘い
になることなく、渋滞にも遭遇せず無事帰宅。
今回、登山レポートというよりも、保久良メ
ンバーの人間ドラマの感が強くなったことは
否めませんが、上述はノンフィクションのド
キュメントであり、保久良ってこんな感じな
んだなあと思って頂ければ幸いです。

追伸：翌日の毎日登山後の反省会で、岡本マ
ダムに「良い経験したあ」「楽しかったあ」と
絶賛して頂き、今回の接待登山は成功だった
と確信するが、「又、行きたいねえ」との一言
に徳重隊長が苦笑いされたのは、私の気のせい
でしょうか？